

弘大『キャリア@通信』 vol.003

弘前大学学生就職支援センター

〈Voice①〉『新しいものを設計したい』

キヤノンプレジジョン株式会社

葛西 智紀さん（平成21年 理工学部卒）

〈Voice②〉『患者さんが元気になる手助けをする』

財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

古川 舞子さん（平成19年 医学部保健学科卒）

〈Voice③〉『自分の目標が大切です』

東京海上日動火災保険株式会社

三浦 梨香さん（平成21年 人文学部卒）

●弘前大学教育改革プロジェクト（弘大GP）

『臨床検査技師トリアル教育』

地域医療機関との連携による医療系学生の
プロフェッショナル意識向上を目的とした
臨床キャリア教育事業

●コラム『社会人基礎力と就業力』

“3つの力と12の能力要素”

●21世紀教育（キャリア教育）

社会と私—コミュニケーションカ

●information

弘前大学主催 合同企業説明会

学生就職支援センターのご案内

キャリア@通信 Voice①

いつか自分で

“新しいものを設計したい!”

キヤノンプレジジョン株式会社

第一事業部 MC 開発部
MC 第一開発室

かさい ともき
葛西 智紀さん

(平成 21 年理工学部卒 25 歳)



妥協は許されない。一から十まで必ずチェックします。

●現在どのようなお仕事をされていますか。

超音波モーターを駆動する回路を設計しています。超音波モーターというのは、人の可聴域を超える超音波を利用した、駆動音が静かなモーターのことで、カメラのズーム機能用途で利用されたり、病院の術野にある医療用カメラの旋回台等に利用されたりしています。特殊なモーターなので、あまり他の会社では作っていないというところに、大変やりがいを感じますね。

課のチーム構成は、大きく分けて

インナーモーター・アウターモーター・超音波モーターの3チームとなっていて、それぞれのチームにメカ・ソフト・回路担当がいます。何か困った事が起きた時は、超音波チームの方に相談したり、回路関係で困ったときは他モーターチームの回路担当の方にも相談し、協力し合って解決しています。答えだけもらうわけではなく、あらかじめ自分で考えて予測を立ててから訊くようにしています。

●仕事をやる上で気を付けていることは何ですか。

商品というのはあくまでお客様にお届けするものですので、「これくらいでいいだろう」という妥協は決して許されないと考えています。一から十までどんなに細かいことでもチェックして裏付けをとるようにしています。

機械と電気。大変だけど両方学べて恵まれています。

●大学で学んだ知識は役に立っていますか。

大学で学ぶ基礎的な知識は必要ですが、実際の現場では、より応用的

な知識が必要になってきます。会社でも様々な研修が行われていますので、進んで参加し勉強しています。また、仕事をしながら徐々に身につけてゆくものもあります。

大学では知能機械システム工学科で、機械やメカ中心に学びました。卒業研究も金属ガラスという材料系でしたから、回路担当になり正直大変でした。もちろん大学で電気系の勉強もしていましたが、電気というのは目に見えないイメージしづらいですし、当時も今も苦労しています。でも、苦労は多いですが、機械だけ、電気だけなど偏った知識ではなかなかひとつのものを作り上げるのは難しいですから、両方学べる今のポジションで働くことができるのは、とても恵まれていると思います。

野球サークルと研究に明け暮れた学生時代。

●葛西さんはどんな学生生活を過ごしていましたか。

小・中・高と野球部でしたので、大学でも野球サークルに入りセンターを務めていました。打つより守備が得意です。当社にも野球部はあ



広々としたキヤノンプレジジョン社屋。

りますが、仕事を覚えるのが精一杯で入っていません。

学生生活で印象的だったのは、やはり卒業研究です。金属ガラスという特殊な素材の研究をしていました。その関係で東北大学にお邪魔し、研究した時のことなどが思い出深いです。

学生の時は、昼ごろ研究室に顔を出し、夜遅くまで実験するという生活。学生と社会人の一番の違いは、やはり就業時間がきちんと決められていることですね。今は朝7時には家を出ます。

就職活動を通してコミュニケーション力UP?

●就職活動はどのようにされましたか。

県内就職を希望していました。また、大学で学んだことを活かせる技術系の職に就きたいと考えていました。最初は卒業研究の金属ガラスを扱っている会社も考えましたが、当時はまだ金属ガラスという素材自体が新しく、発展途上でした。例えば金属ガラスを自動車の燃料電池へ搭載した場合、自動車1台作るのに約2

億円もかかってしまうんです。まだまだ現実性はないと思いました。

弊社を志望したのは、当時非常に急成長していて、それは高い技術力の表れなのではないかと思い、ぜひ働いてみたいと思ったからです。

就職活動中は説明会などの場の人と話す機会が増えたので、コミュニケーション力が身に付きました。今になって思うと、とても良い経験ができたと思っています。

いつか自分で新しいものを設計したい!

●今の目標を教えてください。

超音波モーターはキヤノン本社でも開発しています。私も本社の方と一緒に仕事をさせて頂く機会があるのですが、同じ回路担当の方でも、メカに関して非常に詳しいですし幅広く知識を持っていると感じます。そういう方たちのレベルに、早く追いつきたいですね。

今はまだ上司や先輩の助言を頂きながら仕事をしているので、徐々に自分の力で新規開発・設計ができるようになりたいです。

勉強も遊びも、やりたいことはとにかくやろう!!

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

社会人になった今思い返してみると、大学時代は自由な時間がたくさんありました。もっともっと勉強しておけばよかったと本当に後悔しています。仕事をしながら勉強していると、どんどんわからないが増えてきて、きりが無いんですよ。遊ぶ時間もあまりとれなくなってしまいます。大学の自由な時間があるうちに、とにかくやりたいことはやっておいたほうがいいと思います。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー

小田桐 舞央 (理工学部2年)



入口近くに大きく掲げられた企業理念の前に立つ葛西さん。

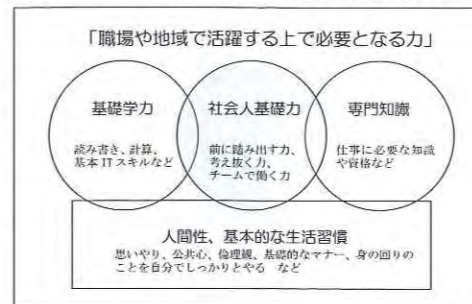
コラム 『社会人基礎力と就業力』 ~3つの力と12の能力要素~

学生就職支援センター
副センター長 小磯重隆

このコラムではキャリア論のご紹介をしていきます。今回は『社会人基礎力と就業力』です。社会人基礎力は、経済産業省が2006年に発表した、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」という“3つの力”と、それらを構成する12の能力要素からなる概念です。“職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な力”のひとつと考えられています。

社会人基礎力の「前に踏み出す力」は、意欲・やる気に関わります。「考え抜く力」は、知識を活用し、解決するためのものです。「チームで働く力」は、よい人間関係を構築し、社会の中で自分を活かすためのものです。

就業力の育成には、社会人基礎力だけではなく、「基礎学力」や「専門知識」が必要です。「人間性、基本的な生活習慣」も活動の基盤になります。これらは相互に作用しながら共に成長していくものだからです。よい経験や活動をする中で他の要素と循環的に向上します。社会人基礎力を育成し、「基礎学力」や「専門知識」修得の意欲につなげて、大学で多くのことを学んだ上で就業力を育成していくことが大切です。



社会人基礎力 (3つの力と12の能力要素)

- <前に踏み出す力>
 - Action 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力
 - 主体性 (物事に進んで取り組む力)
 - 働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力)
 - 実行力 (目的を設定し確実に行動する力)
- <考え抜く力>
 - Thinking 疑問を持ち、考え抜く力
 - 課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力)
 - 計画力 (課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)
 - 創造力 (新しい価値を生み出す力)
- <チームで働く力>
 - Team Work 多様な人々とともに、目標に向けて協力する力
 - 発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)
 - 傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)
 - 柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力)
 - 状況把握力 (自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)
 - 規律性 (社会のルールや人との約束を守る力)
 - ストレスコントロール力 (ストレスの発生源に対応する力)



キャリア@通信 Voice②

リハビリのプロとして、
“患者さんが
元気になる手助けをする”

財団法人黎明郷
弘前脳卒中・
リハビリテーションセンター
理学療法士
こがわ まいこ
古川 舞子さん
(平成19年 医学部保健学科卒 28歳)

姉の一言がきっかけで“理学療法士”を目指しました。

●現在どのようなお仕事をされていますか。

リハビリテーションは、けがの回復訓練から、病気による日常生活活動の不自由さを改善するための訓練、高齢者の在宅支援などがあります。また対象となる患者さんは、子供から高齢者まで多岐にわたります。

その中でも、脳卒中専門の病院である弘前脳卒中・リハビリテーションセンターで、入院されている患者さんや通院される患者さんが、不安なく日常生活を送るための訓練をする理学療法士として働いています。現在私が担当する患者さんは5人。365日シフト体制で、担当が休みの時でも、患者さんが毎日リハビリテーションできるよう、チーム内でカバーできる体制となっています。

●古川さんが理学療法士を目指した理由は何ですか。

高校時代、「将来は人の手助けをする仕事に就きたい」と思っていました。漠然と医療職の道を考えていたのですが、介護福祉士をしている姉

から「リハビリスタッフ」の存在を教えてもらったことがきっかけで、理学療法士を目指すようになりました。

そして大学時代、父や祖母に付き添って病院に通い、リハビリスタッフを目にするようになったことで、よりこの仕事の重要性に気づきました。さらに、大学で理学療法について専門的に勉強するうちに、いろいろな発見とともにどんどん興味が増し、目指した道がぶれることは決してありませんでした。

●どんな学生生活でしたか。

弓道部に所属していたので、1、2年生の頃は、所属学部のあるキャンパスと弓道場との移動で大変でした。1日のうちに何度も往復をして、あっという間に1日が過ぎたように思います。

3年生、4年生前期は病院実習で忙しく、後期は卒業研究と同時に3月の国家試験に向けて勉強漬けの日々。クラスメイトが集まり、大学で勉強することが多かったですね。特に、最後の3ヶ月は、卒論と国家

試験勉強の同時進行で大変辛かったです。ただそのおかげで、効率的に物事を進める力がつきました。

患者さんとの信頼関係がとても大切になります。

●仕事での楽しいこと・辛いことを教えてください。

担当の患者さんが、日常生活を支障なく送れるほどに回復する事が最終的な目標ですが、1人で立ち上がれなかった人が、立ち上がったとか、ちょっとした変化でも、患者さん自身でできることが増えたときはうれしく思うし、もっと良くしてあげた



オフィシャルカディアにある、おしゃれな外観の弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

い、と活力がわきます。

反面、「人を相手にする仕事」であるだけに、自分の思い通りにならなかったり、自分の力ではどうしてもできない事も多く、患者さんが亡くなってしまうことはやはり一番辛いですね。

●患者さんと接するとき心がけていることはありますか。

病気になってしまったことで、中には落ち込んでしまう患者さんもあるため、明るく元気に励ましながらの訓練を心がけています。そして最も気をつけていることは、リハビリのプロとして、安易に良くなる・で

きるようになるとは言わないようにすること。期待をさせすぎること、患者さんのやる気を削いでしまうこともあるからです。リハビリでは患者さんと信頼関係を作ることが大切になってきます。患者さんの家族に対しても同様で、現状を正確に伝え、少しでも不安を取り除いてあげingことを念頭に、今できること・できないこと、家でできる訓練の仕方などを教えたりします。

将来について、より具体的に考えるようになりました。

●結婚されて変わったことはありますか。

独身の頃とは違い生活にメリハリがつかえました。毎日お弁当を作り、仕事をして、家事をこなす。効率よくこなすために、ここでもスケジュール管理が必要です。学生の頃、身につけておいて本当良かったなと思います。

また、将来についてより現実的に具体的に考えるようになりました。出産後でもできる



患者さんの「やる気」を引き出すために、家族を巻き込んで、一緒に訓練することも。

限り理学療法士として働いていきたいと考えています。弘前脳卒中・リハビリテーションセンターは子育てをしながら安心して働ける病院です。産休・育休制度がしっかりしているので、実際に出産後に復帰をしている先輩もたくさんいますし、院内保育園もあり、子供が生まれてからも仕事を続けられる環境が整っているなど感じます。

「学ぶため」に入学したのだから、勉強にも力を入れて!

●弘前大の後輩に何かメッセージをお願いします。

大学時代は貴重な時間。勉強も遊びも目一杯できます。

でも、やはり、「学ぶため」に自分で大学進学を選択した以上、勉強はしっかり身を入れてやってほしいなと思いますね。

その他にもやりたいことがあるなら、何事にも一生懸命チャレンジしてほしいと思います。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー
山崎 菜穂子(人文学部2年)

弘前大学教育改革プロジェクト【弘前大学GP】

地域医療機関との連携による医療系学生のプロフェッショナル意識向上を目的とした臨床キャリア教育事業～臨床検査技師・ライアル教育～

学生就職支援センターと保健学研究科は、入学から将来の医療専門職としてのステップアップまでを一貫して行うことでの就職力upと医療プロフェッショナルとしての意識力upを行うべく、平成23年度より上記の事業を共同で行っています。事業では地域医療機関との連携により1年次学生段階からのインターンシップを行い、東北・北海道管内の医療機関と一緒に臨床現場が求める人材育成を行っています。これによって医療系学生の皆さんが各臨床現場ニーズに合った勉強や就職活動準備を行えるよう支援するとともに、医療人としてのステップアップを地域医療機関と共に支援していきます。



弘前大学、医療専門職団体、北海道・東北管内の地域医療機関が連携して医療専門職の人材育成を連携して行う初めての取り組みです。



弘前大学教育改革プロジェクト【弘大GP】この事業は、新たなプログラムの作成や授業改善のような弘前大学独自の教育改革を継続的に支援していくことを目的としており、授業の改善、カリキュラムの改善等、組織横断を視野にしたプロジェクトチームによる取組に対しての支援が平成22年度から実施されています。

キャリア@通信 Voice③

毎日が勉強

“自分の目標が大切です”



東京海上日動火災保険株式会社
青森支店 自動車営業課 副主事

みうら りか
三浦 梨香さん
(平成 21 年人文学部卒 25 歳)

自分の目標が大切です、
常に勉強しています。

●これまでのお仕事について教えてください。

入社直後は業務グループで仕事をし、入社2年目に現在の自動車営業課に異動しました。主な仕事は、ディーラーさんに対して保険に関する事務の指導を行ったり、来店されたお客様や電話でのお問い合わせの応対をしています。勤務時間は9時から17時までですが、時に18時過ぎまで残業をすることもあります。残業代はきちんと出ますが時間内に仕事を済ませる事が大切なので、そう心掛けています。個人情報扱っているため、自宅に仕事を持ち帰ることはありません。仕事について個人的なノルマはありませんが目標はあります。仕事は数字だけで評価されるのではなく、自分が立てた目標に対してどのように取り組んできたか、過程を見て判断していただけます。年に3回ほど上司と面談する機会があり、そのときに自分の目標に対してどこま

で出来ているのか確認し次の目標を立てます。

●入社後はどのような研修を行ったのですか。

東北ブロック各支店の新人研修が仙台で1ヶ月半ほどありました。宿泊先が同じということもあって同期の



東京海ジョーのキャラクターもかわいいポスター。

絆が深まったと思います。

この研修ではマナーや保険の基本を学びました。入社2年目に2回、3年目も1回仙台で研修があるので、そこで他支店の同期に会えるのはうれしいですね。研修を一緒に過ごした同期とは今でも励まし合ったり、相談したりできるので良い仲間です。

お客様に「安心」を販売しています。

●これまでの仕事の中で、楽しいことと辛いことを教えてください。

保険というのは専門的な知識が必要なため毎日が勉強です。新しい知識を増やしていかないと対応できません。大変な部分はありますが、代理店の方に説明して「分かりやすかった」とか「ありがとう」と言われるとうれしいです。保険というものは目に見えない商品で、お客様に「安心」を販売している仕事だと思っています。目に見えないだけに、時にはお客様の要望に合わないことがあり、辛い思いをすることがあります。

大学主催の合同企業説明会での出会いがきっかけです

●この企業を応募したきっかけを教えてください。

就職活動をするとき、地元(青森)勤務で結婚後も働ける企業を探していました。実はインフラ系の業界を考えていて、保険業界の活動はしていませんでしたが、弘前大学の合同企業説明会で当社の説明を聞いた際に、社員の方々がイキイキと働いているなど感じました。保険という目に見えない商品で「安心」を扱っているという事を知って興味を持ちました。

●会社に対してどのようなイメージがありましたか。

就活していた頃は当社に対して固いイメージがあったのですが、面接が進んでいくにつれて私個人をきちんと見て評価してくれていると感じてより一層志望度が増しました。入社当初は、外に出る営業は男性社員が主だったのですが、最近では女性社員でも積極的に外に出て営業し、活躍できるように体制がかわりました。

家庭教師のアルバイトの経験が活かされています。

●弘前大学では、どのような学生生活でしたか。

木村宜美先生のゼミに所属して英語学を学んでいました。文法の法則について勉強していたので英会話に関してはあまり自信がありません…。自宅のある青森市から通っていました。家庭教師のアルバイトでは、中学生と高校生を対象に英語、国語、数学を教えていました。相手が理解しやすいように説明する技術は、このアルバイトの経験で培われたと思います。

目的を持って
大学生活を過ごそう!

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

就職活動は業種にあまりこだわらず、自分の視野を広げた方が良いと思います。大学で行っている企業説明会は良い機会だと思うので、色々な業種に参加してみるといいと

思います。大学生活に関しては、時間を有意義に使って下さい。たとえばアルバイトであってもお金を頂いている以上は誇りと責任を持って取り組んだ方がいいと思います。今やっている仕事の意味を考えながら働くとか、相手を思いやる気持ちを持って働く事が大事だと思います。サークルでもそうですが、自分の立場を理解して今何をすべきか考えて行動して欲しいですね。何か1つでも「これは頑張ったな」と思える物があれば実になっていると思います。

●本日は有り難うございました。

取材・インタビュー
福士 真由(人文学部2年)



専門的な知識が必要なため毎日が勉強。代理店さんの訪問も仕事のひとつです。



21世紀教育(キャリア教育) 社会と私-コミュニケーション力

21世紀教育では特設テーマ科目「社会と私-仕事を通して考える」「社会と私-キャリア・デザイン論」「社会と私-コミュニケーション力」「社会と私-大学で身につけるべき力」などのキャリア教育科目を開講しています。地域の職業人や社会で活躍する卒業生のお話を直接聞く講義、自分の進路やビジョンを考える講義など内容は様々です。今回は演習を中心に行っている参加型授業の「社会と私-コミュニケーション力」を紹介します。



グループディスカッション
青森の観光について話し合いました。



グループワーク
紙模型のピラミッドを生産加工中。



「設計」を検討中。具体的に試作を1個作ってみます。品質と納期と生産性も重視されています。

参加型授業は社会人基礎力を高めると注目されています。課題を見つけたり、解決方法を考え、実行したり、グループで話合ったり、協力して問題を処理したりする体験型の学習です。授業では、ディスカッションやグループワークを行っています。学部や学年の違う学生がチームを組んで課題に取り組みます。例えば、紙模型のピラミッドを「試作設計」から「生産加工」まで5チームに分かれて取り組みました。簡単そうで難しい課題です。

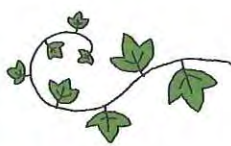
大学主催『合同企業説明会』

2月14・15日弘前大学主催「合同企業説明会」が開催されました。県内外207社の企業採用ご担当者方々にお集まりいただきました。学生も2日間でのべ908名が参加しました。2月10日には医学部保健学科主催で医療関係のみの説明会が本町校舎で開催され、医療関係100施設にお集まりいただきました。



『合同企業説明会』の風景
(会場：ニューシティ弘前)
207社の企業にお集まりいただきました。

学生もメモを取り、
熱心に聞きます。



学生就職支援センターのご案内

総合教育棟1階にある学生就職支援センターに立ち寄ってみてください。センターには企業から頂いた求人票や会社資料の他、教員・公務員採用試験、先輩の就職活動報告書などの資料もあります。



就職相談も受け付けています。左から今泉相談員、
齋藤相談員、木村相談員。



編集後記



弘大『キャリア@通信』の読者は学生です。社会で活躍している弘大卒業生のお話を聴くことで職業観やキャリア意識を培ってください。大学教職員のほか、皆さんを多くの先輩達がサポートしてくれます。

左側に描かれている赤いりんごとハートはセンターのマークです。りんごは青森県を、赤いハートは学生の皆さんや企業の方々に応対する教職員の精神を象徴しています。我々も皆さんと同じ思いを持って就職活動を支援し、皆さんひとり一人、りんごのように大きく実ってほしいとの願いも込められています。



小田桐 舞央 (理工学部2年)

普段はなかなか聞けないお話を社会人の方から直接伺うことができ、とても良い経験になりました。



船水 彩 (人文学部2年)

先輩方の仕事に対する熱意がレンズ越しに伝わってきました。非常に有意義な取材ができました。



山崎 菜穂子 (人文学部2年)

働いている方は自分の今後に活かせることばかりでした。良い経験になったので良かったです。



福士 真由 (人文学部2年)

保険業界のイメージが変わりました。働くことに対して真剣に考えるきっかけになりました。

表紙の写真

文京キャンパスにある外国人教師館。大正期に建てられ本学構内に移築されました。当時の資料も展示されています。右上の写真は人文学部中庭にある太宰治も飲んだ井戸。右下は構内の地熱利用融雪システムの歩道です。



弘大『キャリア@通信』vol.003 平成24年3月24日

編集・発行//弘前大学学生就職支援センター
取材学生スタッフ//小田桐舞央、山崎菜穂子、福士真由
撮影//弘前大学写真部 船水彩

